

道路や河川の景観整えて 人吉市建設協会清掃ボランティア



8/7

30事業所から42人が参加し汗を流した

人吉市内の建設業者でつくる人吉市建設協会が、地域貢献の一環として道路や河川の清掃ボランティアを行いました。出発式で松岡市長は「毎年、市の手が届いていない場所への力添えは大変ありがたい」と感謝。その後、参加者は4班に分かれ、願成寺町、西間上町、城本町、九日町、新町までの各所で作業。茂田川（西間上町）護岸の草刈りや大橋歩道の除草、堆積した土砂の撤去などに汗を流し、お盆の帰省客や観光客、地域住民が快適に過ごせるよう、まちの景観を整えました。

市役所職員ってどんな仕事？ 人吉市子ども参観日



8/7

子どもたちは議場で議長席からの眺めなどに興味を示した

人吉市職員の子どもたちを市役所に招く「子ども参観日」を開催し、小学1～6年生の27人が参加しました。子どもたちはまず松岡市長と対面し、人吉のまちづくりや力を入れていっていることについて質問。その後、「たんけん隊」となつて、普段は入る機会がない議場や正副議長室などを見学しました。保護者が働く部署にそれぞれ移動した後、ほかの職員と手作り名刺を交換したほか、ラベル貼りなど仕事の一部を体験し、保護者の仕事や市役所の役割への理解を深めていました。

空港直行バス利用者1万人達成 つばめエアポートライナー利用者1万人



8/17

梶木隆幸運行管理マネージャーと記念品を手にする谷口さん

人吉と鹿児島空港を結ぶ乗合直行バス「つばめエアポートライナー」の利用者が1万人を達成しました。令和7年8月1日から本格運行を開始した同バスは、市内の宿泊施設などの停留所と道の駅えびの（宮崎県えびの市）、鹿児島空港を結ぶもので、つばめ交通株式会社（中青井町）が運営しているもの。1万人目は帰省のため利用した谷口智子さん（大阪府）。市役所バス停前で、谷口さんに同社から記念品が贈呈されました。旅行や出張など、鹿児島空港利用時はぜひ活用ください。

拓本づくりで歴史を体感 拓本をとってしおりをつくろう！



7/25

水で濡らした脱脂綿で慎重に遺物に紙を密着させた

人吉城歴史館の夏休みイベントとして土器の破片などの拓本づくりを体験するワークショップを開催しました。参加者は、考古学の調査で用いられる「湿拓」と、鉛筆で図柄を写し取る「乾拓」に挑戦。湿拓では、市内の遺跡から出土した本物の遺物を使用。遺物に紙を密着させた後、墨を含ませたタンポ（丸めた布）で丁寧にたたき、土器に刻まれた文様を浮かび上がらせました。小学5年の米原龍生さんは「文様が少しずつ浮かび上がってきて面白かった」と話していました。

空を見上げて被災地の復興に思いはせ 第71回人吉花火大会



8/15

さまざまなパフォーマンスを披露し会場を盛り上げた



会場周辺には出店が並び、長蛇の列ができるほど盛況

先祖への鎮魂、そして人吉の夏の風物詩としても親しまれる人吉花火大会を開催しました。打ち上げ前には、令和8年熊本地震の犠牲者を追悼する花火を打ち上げ、観客らは静かに夜空を見つめ、被災地のいち早い復興に思いを寄せました。その後、色鮮やかな花火が次々と打ち上がると夜空が大輪の花で満開に。本市出身の内村光良さん協賛の花火には、ひととき大きな歓声が上がりました。来場者は花火を眺めながら食事を楽しむなど思い思いに夏のひとときを満喫していました。



約5千発の花火が人吉の夜空を彩った

寺子屋で育む学びと交流 西間上町寺子屋



8/4

民生委員・児童委員の西 斉也さんが一人一人をサポート

西間上町内会では、夏休み期間中に子どもたちの学びと交流の場「西間上町寺子屋」を町内の公民館で開きました。保護者からの要望を受け、初めて実施したものです。寺子屋は19日間開放。集中できる環境の中で、子どもたちは夏休みの宿題や自由研究、工作などに熱中。上級生が下級生に勉強を教えるといった場面も見られました。また、「ころばん体操」や「デイサロン」の参加者などと触れ合う機会もあり、世代を超えた交流の場となりました。

災害時の物流体制を強化 災害時の物資配送等に関する協定締結式



7/22

人吉球磨地域では、球磨郡多良木町、湯前町に続いて3例目

市では、災害時の救援物資の配送や集配拠点の運営を円滑に行うため、佐川急便株式会社（京都府）と協定を締結しました。災害時は支援物資が届く一方、物資の管理や車両の確保、受入倉庫の不足などで、避難所への配送に時間がかかることが課題です。こうした課題解決に向け、各地の自然災害で支援実績のある同社と協定を結びました。締結式で松岡市長は「豪雨災害で、必要な物を必要な人へ届ける難しさを実感した。今後は具体的な備えを進めたい」と意欲を示しました。